

# 環境保全活動

環境への負荷を低減することは、事業活動を持続的に発展させるために不可欠な取り組みです。荒川化学グループではそのことを最優先課題として認識し、一丸となって取り組んでいます。



## CO<sub>2</sub>排出量の削減

さまざまな施策によって省エネルギーを推進し、CO<sub>2</sub>の削減を進めました

生産活動におけるエネルギー消費(燃料、電気)に伴い、地球温暖化ガスのひとつであるCO<sub>2</sub>が発生します。そのため、省エネルギーの実施によりCO<sub>2</sub>発生量の削減に努めました。

省エネルギーでは、省エネ機器(高効率変圧器、高効率照明、インバーターなど)の積極的な導入、エネルギーのムダ排除(蒸気ユーティリティ設備の管理徹底による損失削減、不要な蒸気使用減少、ボイラーなどの運転管理、焼却炉運転の集中化)などを推進しています。

省エネルギー活動の結果については、2009年度はエネルギー原単位で2007年度比2%削減を目標にしましたが、逆に6.5%増加し目標は達成できませんでした。この原因としては、2008年度の世界的不況で落ち込んだ生産量が2009年度も十分回復しなかったことが影響しています。

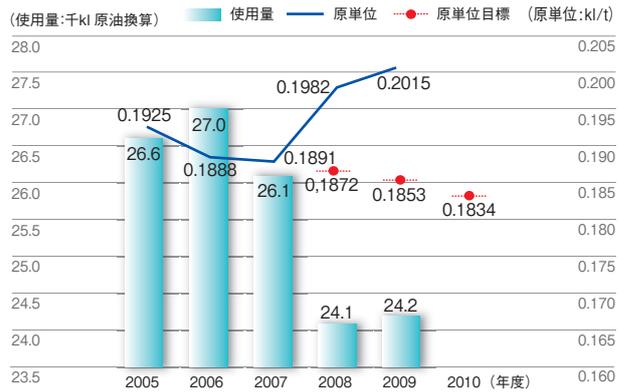
生産量が低レベルであったため、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量とも少なく、CO<sub>2</sub>排出量の2009年度目標である、2007年度比2%減に対し、実績は6.5%減と大幅に目標をクリアしました。

**今後の取り組み** 現在、富士工場ではLPGを使用していますが、CO<sub>2</sub>発生量の少ない天然ガスへの転換を計画しています。荒川化学では省エネ活動の継続や天然ガス化などCO<sub>2</sub>減少に向け不断の努力を続け、2010年度のCO<sub>2</sub>は2007年度比3%削減、2012年度は5%削減を目指します。

■CO<sub>2</sub>排出量の推移



■エネルギー使用量の推移



## 大気汚染防止

さまざまな対策により、SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>を減少させました

SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>排出量を減少させる対策として、重油を燃料とする発電機の廃止やボイラー燃料のガス化、蒸気ユーティリティ設備の管理徹底や不要な蒸気使用減少による燃料節減などの対策を実施しています。その結果、規制値に比べ十分低い値を維持しており、目標である「規制値遵守」を維持できています。

**今後の取り組み** 今後も法規制値を遵守していくほか、VOC(揮発性有機化合物)の排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性能な脱臭装置のさらなる増設を進めていきます。

■SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>排出量の推移

